

令和2年3月

飯能市の景観に関する市民意識調査
結果報告書

【調査概要】

- 調査の目的：中心市街地を宮沢湖周辺地区に続く「景観形成重点地区」として検討するための基礎資料とするため
- 実施方法：18歳以上の市民を対象に郵送及び手渡し
- 調査対象数：1,000人
- 調査対象地区：中心市街地（山手町、本町、八幡町、東町、柳町、仲町、稲荷町、南町、大字飯能の一部、大字久下、栄町、緑町）
- 実施期間：令和元年10月25日～令和元年11月15日
- 回収率：32.8% (328/1000)

※浅野氏による追加サンプルについては、自由記述の回答を本報告に含めて記載した。

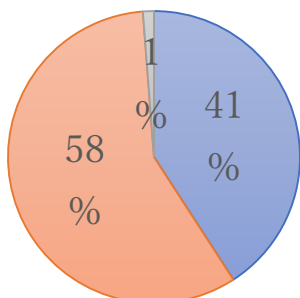
【アンケート構成】

- 回答者の個人属性（問1～4）
- 飯能市の景観に対する市民の意識（問5～9）
- 景観形成重点地区追加の検討（中心市街地の景観ルールについて）（問10）
- 西川材の活用について（問11～12）
- 景観づくり活動について（問13）
- 景観づくりへの市民意識について（問14）
- 飯能市の景観に関する自由意見

【単純集計結果】

●回答者の個人属性

問1 回答者の性別

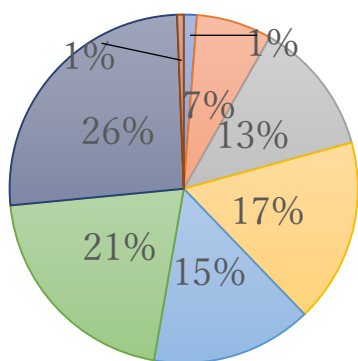


性別	回答数	割合
男性	134	41%
女性	190	58%
無回答	4	1%
合計	328	100%

■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

・女性の回答数が男性よりやや多い。

問2 回答者の年齢

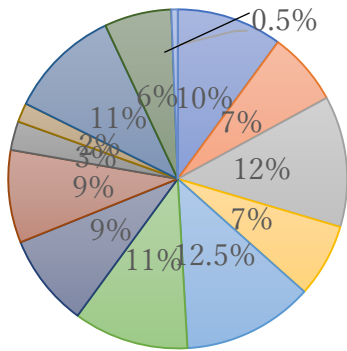


年代別（配布数）	回答数	割合	年代別回答割合
10代 (21)	4	1%	20%
20代 (116)	23	7%	20%
30代 (137)	41	13%	30%
40代 (185)	56	17%	30%
50代 (169)	49	15%	29%
60代 (157)	68	21%	43%
70代以上 (215)	85	26%	40%
無回答	2	1%	—
合計 (1,000)	328	100%	—

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代
 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代
 ■ 70代以上 ■ 無回答

・回答率の半数以上が50代以上であった。
 ・年代が上昇するにつれて回答率が高まる。
 ・全体としては、10代を除き大きな偏りはない。

問3 回答者の居住地

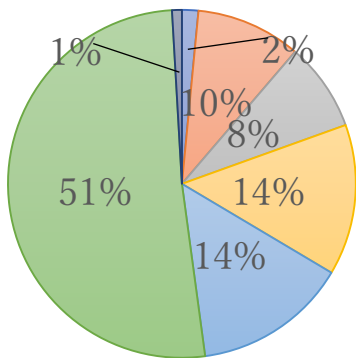


- 山手町 ■ 本町 ■ 八幡町 ■ 東町 ■ 柳町
- 仲町 ■ 稲荷町 ■ 南町 ■ 大字飯能 ■ 大字久下
- 栄町 ■ 緑町 ■ 無回答

地区名（配布数）	回答数	割合	地区別 回答割合
山手町（107）	33	10%	31%
本町（79）	23	7%	29%
八幡町（127）	41	12%	32%
東町（73）	23	7%	32%
柳町（123）	41	12%	33%
仲町（131）	36	11%	27%
稲荷町（77）	29	9%	38%
南町（82）	29	9%	35%
大字飯能（24）	9	3%	38%
大字久下（14）	6	2%	43%
栄町（99）	35	11%	35%
緑町（64）	21	6%	33%
無回答	2	1%	—
合計（1,000）	328	100%	—

・ 地域ごとの回答率に大きな差はない。

問4 回答者の飯能市での居住年数



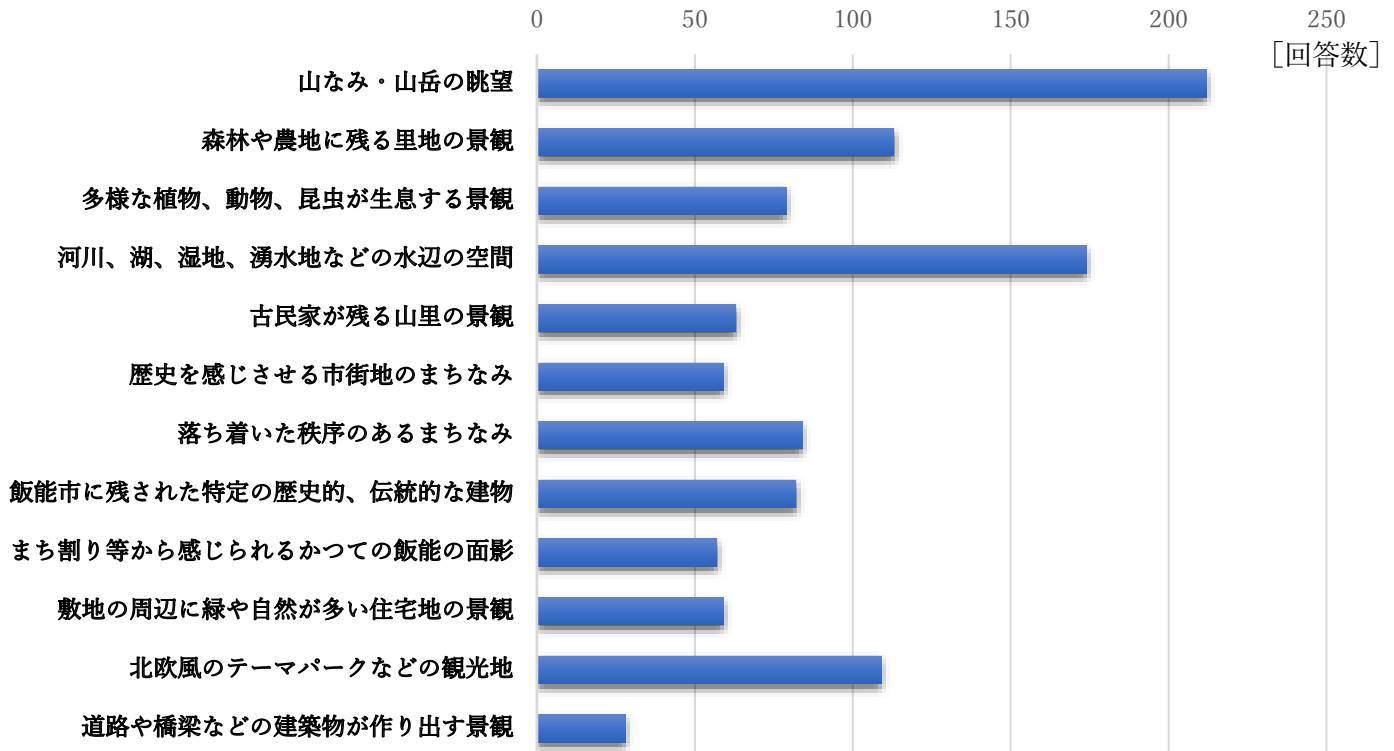
- 1年未満 ■ 1年以上-5年未満
- 5年以上-10年未満 ■ 10年以上-20年未満
- 20年以上-30年未満 ■ 30年以上
- 無回答

居住年数	回答数	割合
1年未満	5	2%
1年以上-5年未満	32	10%
5年以上-10年未満	27	8%
10年以上-20年未満	46	14%
20年以上-30年未満	47	14%
30年以上	168	51%
無回答	3	1%
合計	328	100%

・ 回答数が最も多かったのは、居住年数が30年以上の方で、全体の半数以上を占めている。

●飯能市の景観に対する市民の意識

問5 飯能市において重要と考える景観の特徴（下記選択肢のうち複数回答可、4つまで選択）



回答の要点：

山なみ、森林、河川など自然景観に関する項目に対する回答が多い。一方、まちなみなど、住宅地や建造物に対する重要性の認識は低い。

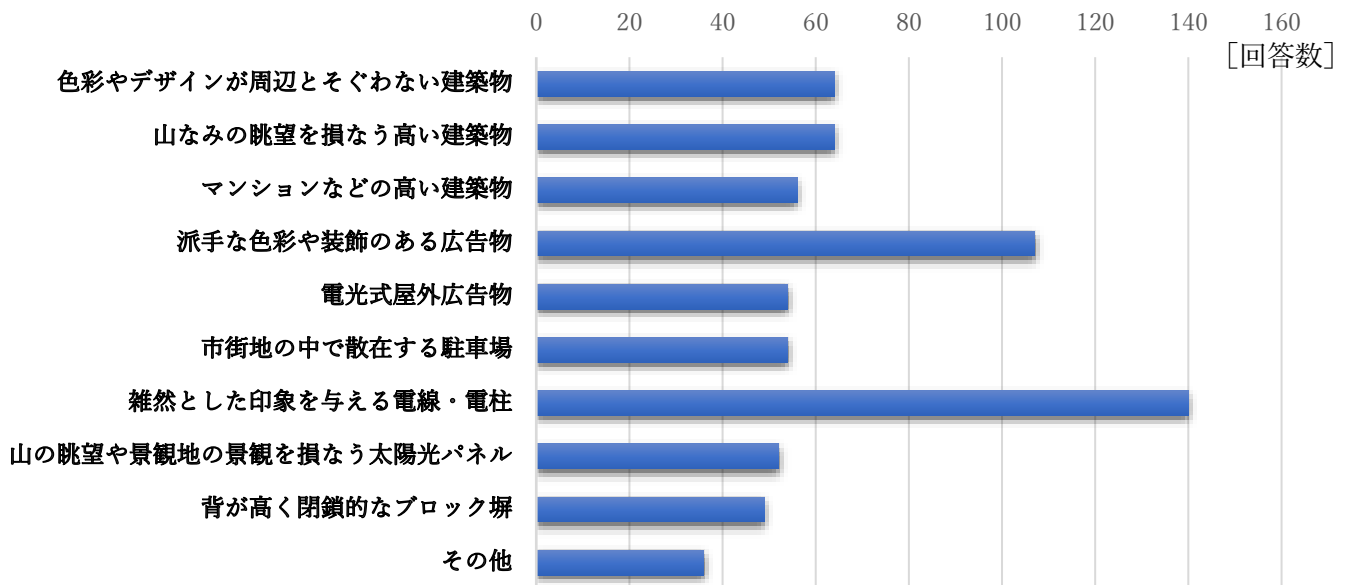
問6 問5の景観の具体的特徴や、それ以外の景観で大切にすべき場所や、建築物・自然・お祭り等の行事・風景について（自由回答）

- ・「山、川、里山の自然」
- ・「飯能納涼花火大会、割岩橋」
- ・「点在している神社にちょっと遊べる広場がついているところ（八幡神社、白髭神社など）」
- ・「ハイキング道」
- ・「各地区の山車やお囃子等」
- ・「絹甚」
- ・「西川材を利用している駅構内、改札口を出たところにあるベンチ、図書館」
- ・「飯能市の食材で作られた日本酒、地ビール」
- ・「八高線の阿須の鉄橋」
- ・「能仁寺」
- ・「市街地の周囲を囲む山の稜線」
- ・「飯能駅から徒歩数分で到達する清流」
- ・「メッツァ、トーベヤンソン、飯能の駅舎」
- ・「個人商店のそれぞれのカラーに彩られた商店街」
- ・「飯能で最も人集めができる催しは「飯能まつり」の山車曳行、曳合せ。これを利用しない手はない」
- ・「市民体育館の西川材を取り入れたつくり」
- ・「東飯能駅前の桜」
- ・「有間ダム」
- ・「吾野宿、あかね山、吾妻狭」
- ・「飯能河原から矢嵐までの景観、阿須の遊歩道等、飯能駅・東飯能駅・元加治駅から歩いて行ける場所の景観を

大切にすべき」

- ・「大晦日の除夜の鐘、元旦の初日の出から続く、年中の季節行事。」
- ・「旧名栗村周辺は川の水もきれいだし、緑も多くて空気も市街地に比べてすごく良い」
- ・「西川林業地の美林」「高麗川等の水辺の景観（ユキヤナギの生える岩場など）」
- ・「飯能には昔からの立派な店や蔵などたくさんあります。各家の老朽化で維持していくのは大変なことと存じますが、なくなっていくことは本当にさみしいことです。西川材などで栄えていたまちなみや、趣のある家々を大切に残してほしいです。」
- ・「飯能の景観で特に大事だと感じるのは、昔からの生活に関わる部分である。歴史的に重要なシンボリック建物だけではなく、路地や商店街に広がる大正～昭和を感じさせる看板建築や路地など、また里地里山の景観や各種祭りの風景も含め「人の生活の痕跡としての景観」こそ飯能固有の大切にすべき景観だと思う。」
- ・「神社、仏閣、また現在飯能博物館でやっている名宝類」
- ・「” ムーミン” とのことで駅など少し変わりましたが、一歩外に出るとこれといった他の街との違いもなく、緑と清流といいながら、街中には緑がなく無様な雰囲気です。街中にあった大木も惜しげなく倒し、本当にかっかりです。やはり緑を多くすべきと思います。街歩きするにもホッとできるような。」
- ・「身近に山、川という豊かな自然があり住む人たちの生活が感じられる路地や建物を大切にしたい」
- ・「織物協同組合事務所を中心としたまちなかの景観（今が良くて保全というより大切に美しく整えていければ素晴らしいと思います。）」
- ・「智観寺、心応寺あたり。おそらく多治比縣守の居館跡と思われ、高麗郡設置の際の上総郷が中心になったのでしょう。智観寺の中山信吉墓の小塚はそれより古く、ヤマトタケルの時代のものかと」
- ・「飯能まつりの山車、底抜け屋台」

問7 飯能市の景観に悪い影響を与えると感じるもの（下記選択肢のうち複数回答可、3つまで選択）

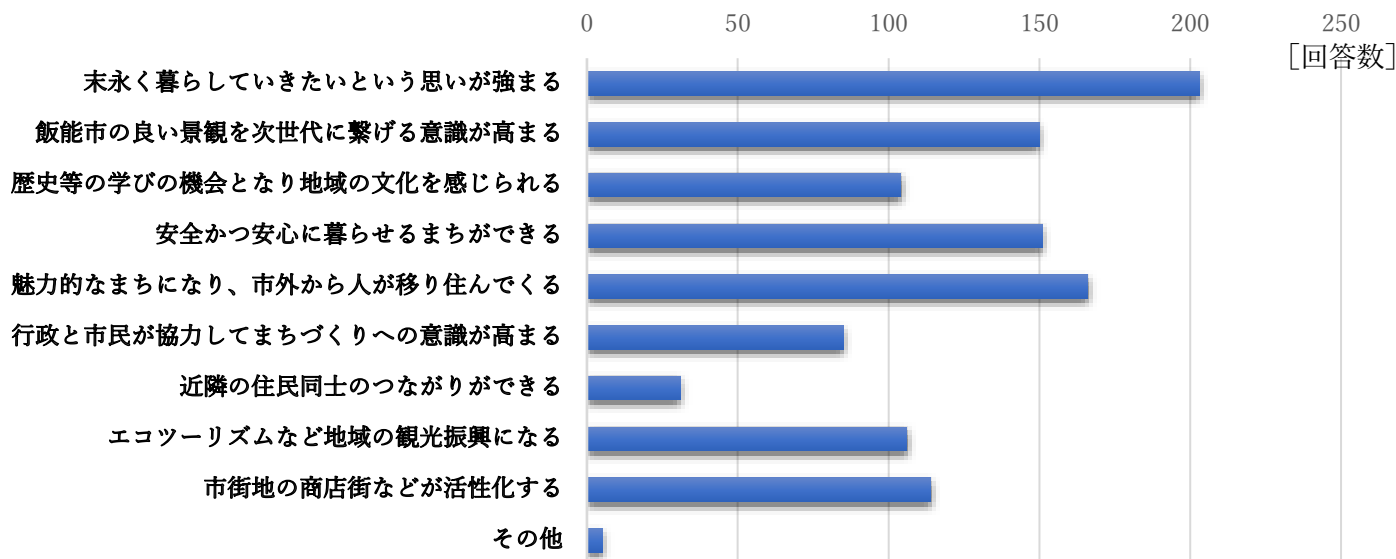


※その他の意見：「シャッター街が多い」「駅前のパチンコ屋」「歩道が狭い」「駅前の居酒屋のキャッチ」など

回答の要点：

「電線・電柱」と「広告物」が突出している。その他は大きな差はないが、次いで「高さや色彩の点で問題のある建築物」となり、「ブロック塀」「駐車場」「太陽光パネル」などの建築物でないものは比較的悪い景観とは認識されていない。

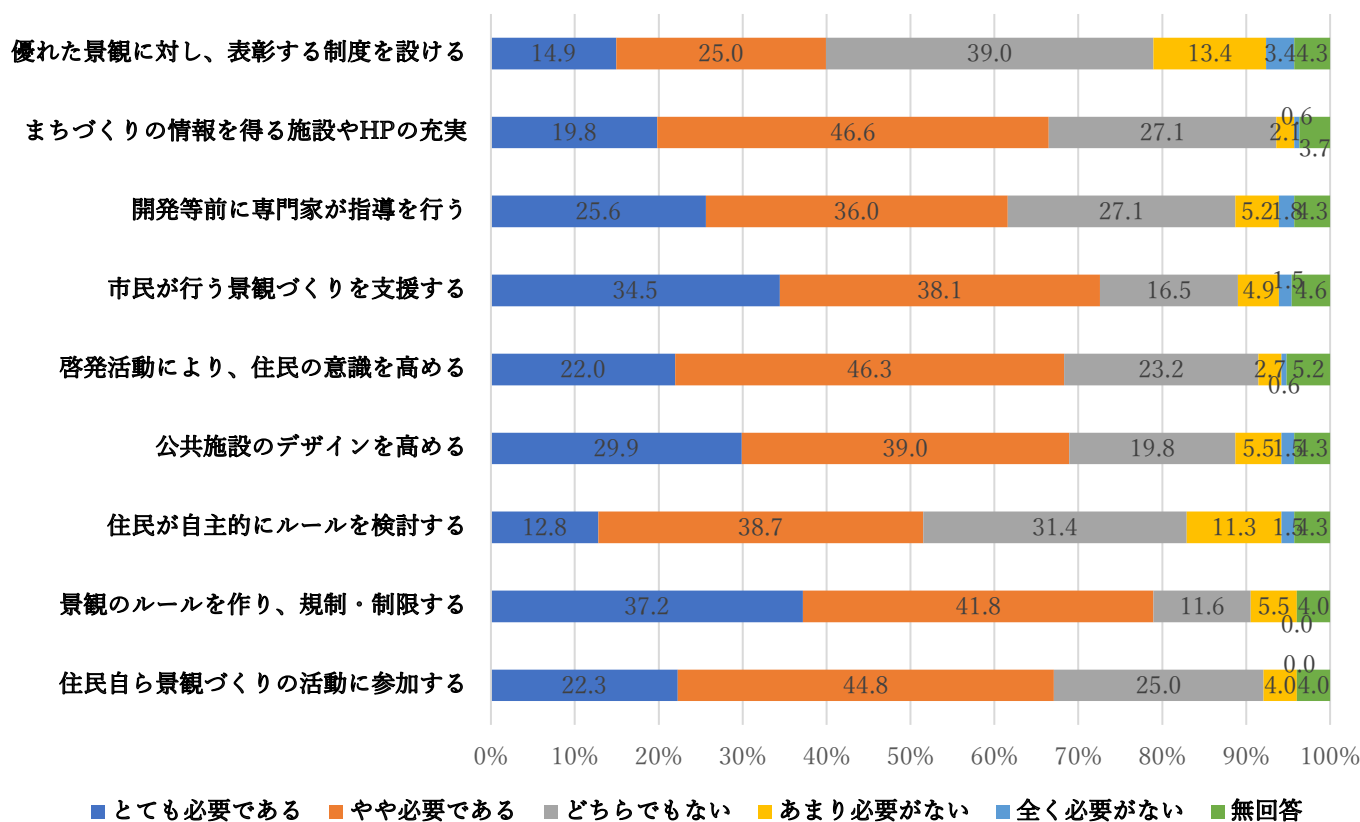
問8 景観を良好にすることで得られる効果と思うもの（下記選択肢のうち複数回答可、5つまで選択）



回答の要点：

景観づくりの効果は、「住み続けること」「次世代への継承」「安全な暮らし」「人が集まる（衰退しないということ）」など飯能市での暮らしを支える効果が挙げられた。一方で、「観光振興」「商店街の活性化」という産業面での効果は住環境と比べるとやや低い。

問9 今後、市で景観づくりに取り組む際、下記項目の取組をどの程度必要とご考えですか



回答の要点：

「景観のルールを作り規制・制限をする」について最も必要性が高い。また「市民の景観づくりを市が支援する」についても必要性は高い。これら行政が主体となって実施する取組は必要性が高いと認識されるが、「住民が自主的にルールを検討する」など、市民自身の取組については消極的である。

●景観形成重点地区追加の検討（中心市街地の景観ルールについて）

問 10-① 中心市街地での下記項目の景観ルールを、どの程度必要とご思いますか

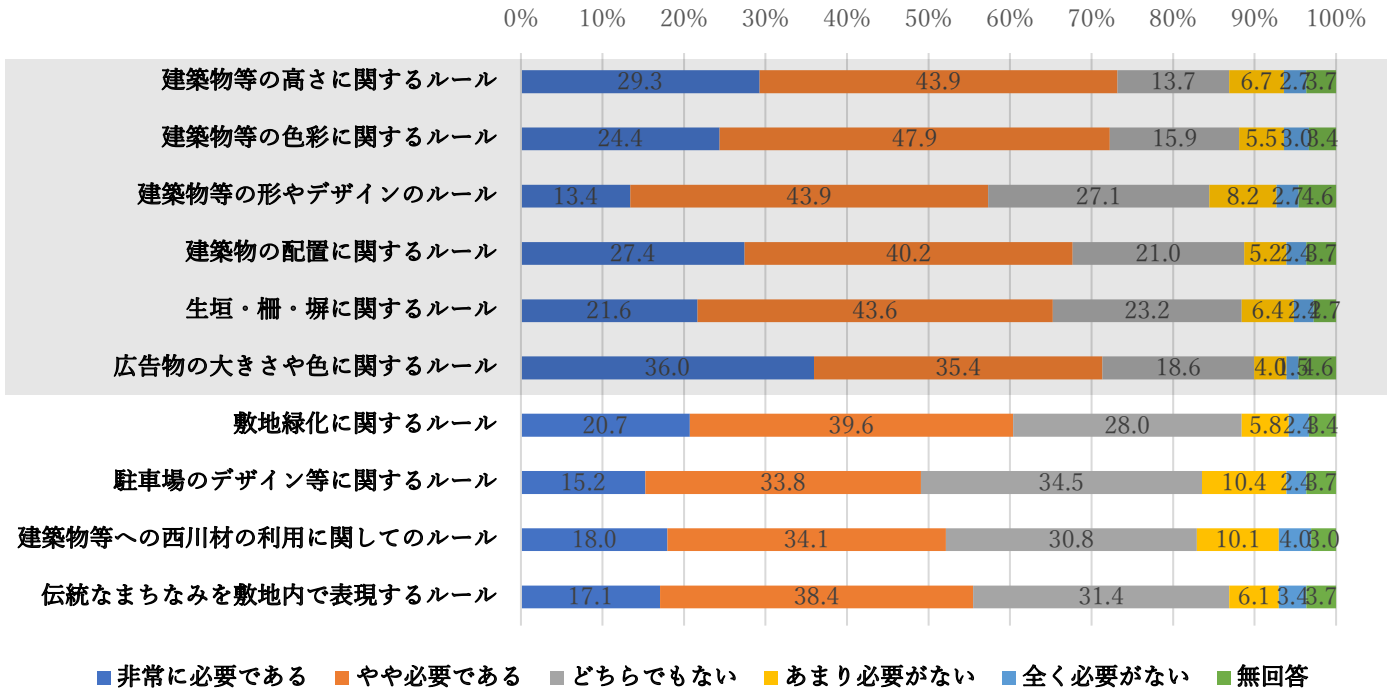


図 景観形成基準（景観のルール）内の必要度

問 10-② 中心市街地での下記項目の景観ルールを、あなた自身はどの程度受け入れますか

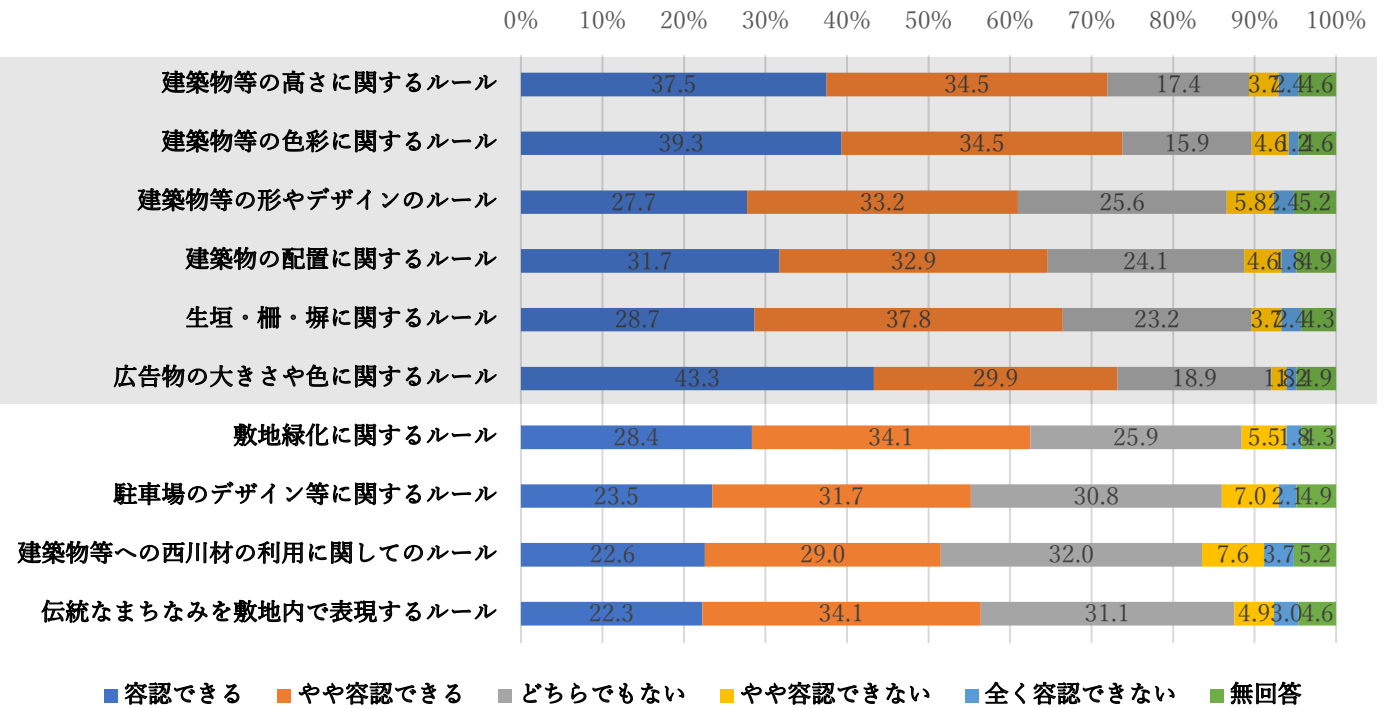


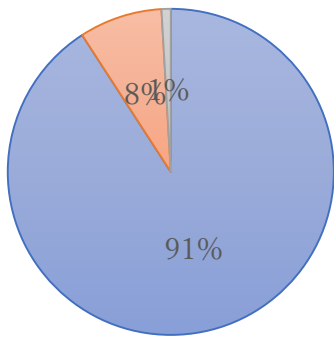
図 景観形成基準（景観のルール）内の許容度

※灰色の部分が市全域に対する現行のルール、灰色部分の下側が今後、重点地区で検討が必要と考えられる独自のルールとなっている。独自のルールは市街地の景観の個性を踏まえた基準を含んでいる。

回答の要点：
 全体的に、「建物の高さや色彩」など基本的なルールについては必要度も許容度も高い。「敷地緑化」「駐車場」「伝統的なまちなみへの配慮」など飯能独自の基準については、前者に比べて必要度も許容度も低くなるが、50%以上の人が必要性を認め、容認できるとしている。

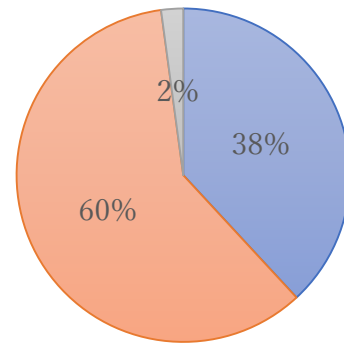
●西川材の活用について

問 11 西川材及び西川材住宅等建築補助金制度を知っていますか



■知っていた ■知らなかった ■無回答

図 西川材を知っているか



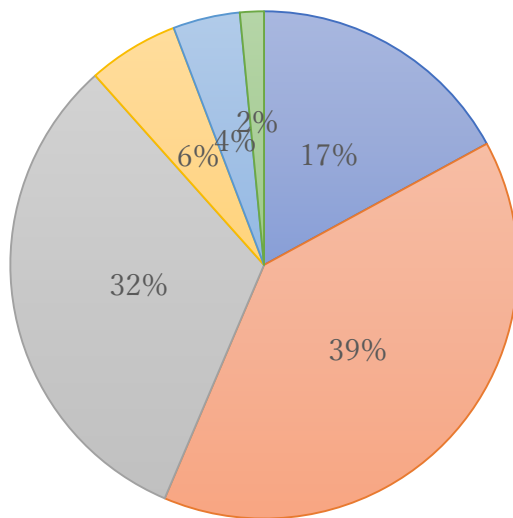
■知っていた ■知らなかった ■無回答

図 西川材住宅等建築補助金を知っているか

回答の要点：

西川材の認知度は高いが、西川材住宅等建築補助金については4割程度しか認知されていない。

問 12 建築物の一部、道路沿いや敷地境界の柵への西川材活用をルールにすることについてどう思いますか



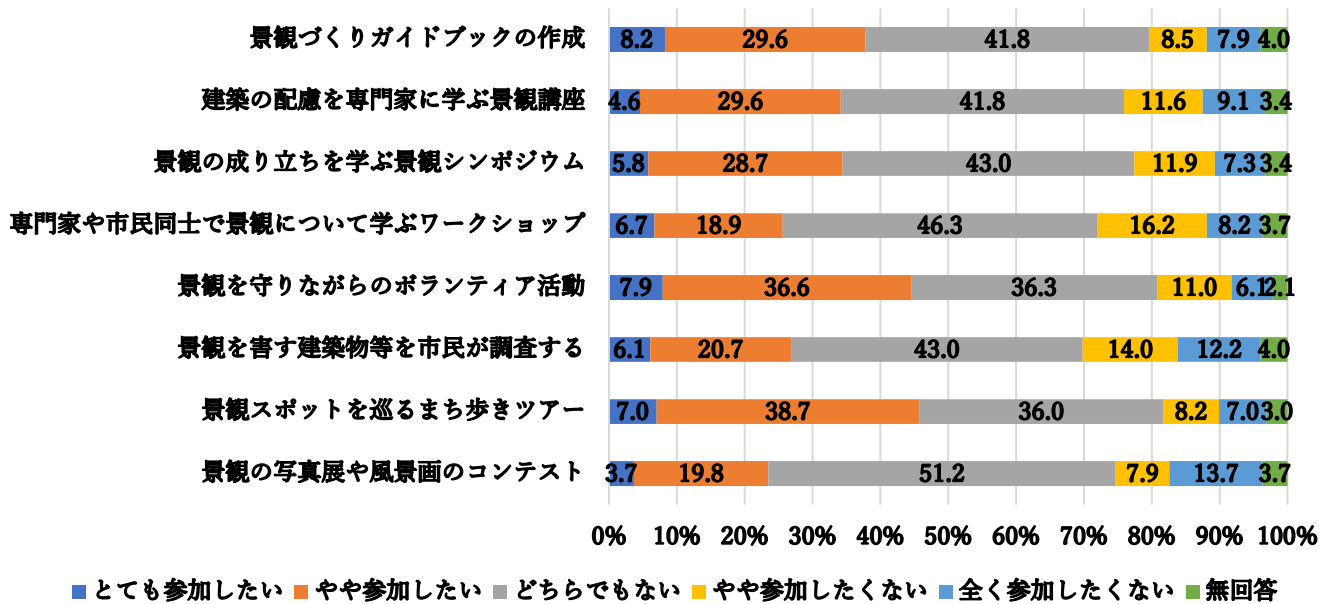
■賛成であり、ぜひ活用したい
 ■現在西川材を使う予定はないが、ルールとしては賛成だ
 ■どちらでもよい
 ■反対だ
 ■その他のご意見

回答の要点：

西川材の活用をルールにすることについて、半数を超える人が肯定的に捉えている。

●景観づくり活動について

問 13 下記の景観啓発活動へ、どの程度参加したいと思いますか



回答の要点：

「景観を守りながらのボランティア活動」と「景観スポットを巡るまち歩きツアー」への肯定的な回答が多い。一方で「景観に対してのワークショップ」「市民が景観への調査をする」への否定的な回答が多くなっている。全体的には参加したいといった意見が多い。

●景観づくりへの市民意識について

問 14 以下のまちづくりマインド質問項目に対して、どのように考えていますか

まちづくりマインド質問項目

要素	質問内容
配慮的行動	私はこれまで、飯能のまちを良くする活動に参加してきた。
危機感	飯能ではまちの景観が悪化する心配は今のところ無いと思う。
責任感	行政や専門家に任せるのではなく、自分も景観づくりに協力しなければと思う。
負担感	建築物のデザインや敷地の緑化などで、景観づくりに協力するのは負担が大きく難しい。
効力予期	私はまちの景観を良くする活動を実行できる。
社会規範	多くの人々が飯能の景観を大切に思っているなら、私も景観づくりに協力をしたい。
実行可能	他の人の建築物でまちの景観が悪化することもあるので、私は景観づくりに協力できない。
結果予期	私の敷地だけでもささやかな緑化をすれば、まちの景観が良くなると思う。
有効感	市役所が景観のルールを定めてもまちの景観は良くなると思う。
配慮的意識	まちの景観づくりについて学んだり、何らかの協力をしてみたい。
地区への愛着	私は、今暮らしているまちに愛着を感じている。

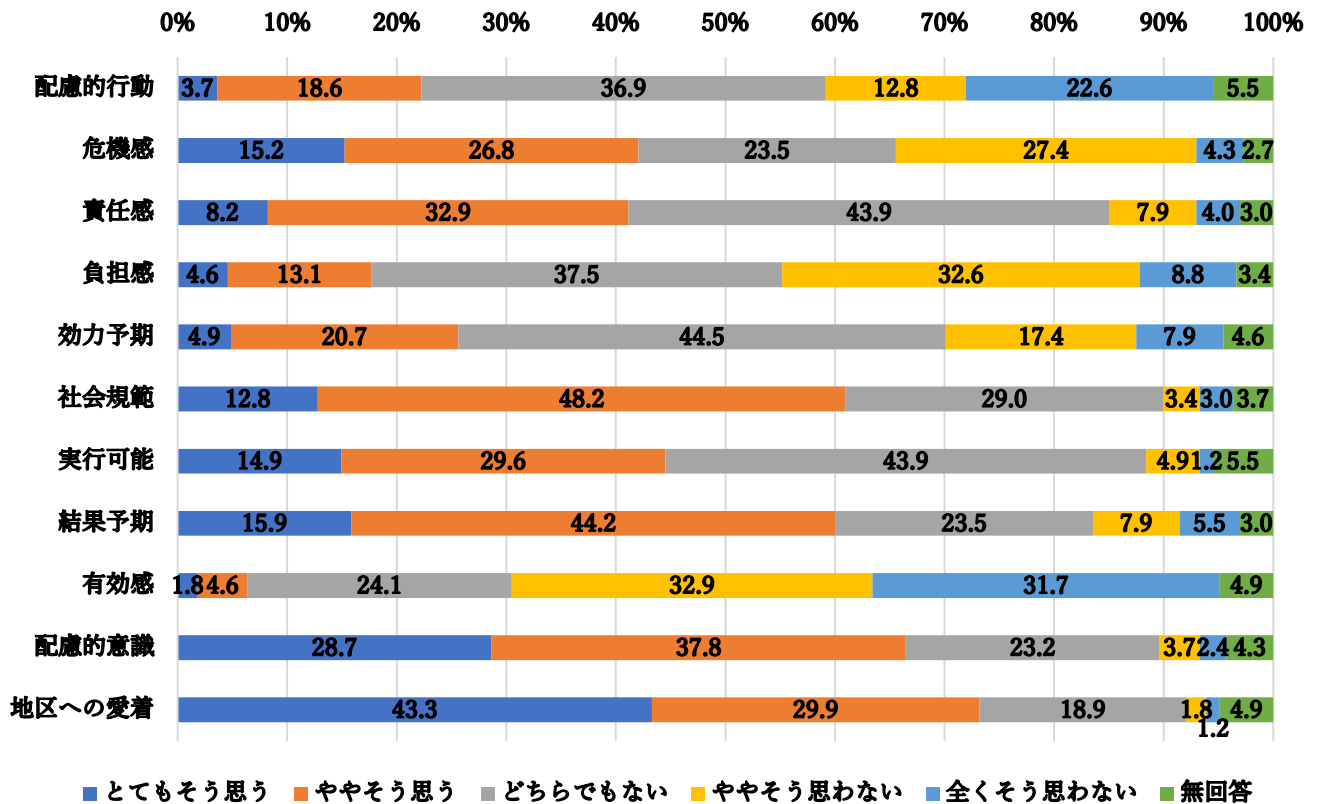


図 まちづくりマインド集計結果

回答の要点：	
市民の景観づくりに対する意識の特徴	
マインド要素	回答者の平均からみる飯能市民のまちづくりに対する意識の特徴
配慮的行動	すでにまちづくりに実践して取り組んだ経験のある人は20%程度である。
危機感	まちの景観の悪化について心配していない人は40%を超え、景観に対する意識が高いとは言えない。
責任感	景観づくりに主体的に協力するとの意向は40%程度であり、まちに対する一定の貢献意識はある。
負担感	景観づくりに対する負担感は低く、行動力があると感じられる。適切な機会と情報の提供で景観づくりへの協力は期待できる。
効力予期	やや低めの数値となっている。景観づくりへの参加には、そこに至るまでのきっかけや理由（参加のメリットなどインセンティブ）が必要になる。
社会規範	6割以上の方が「そう思う」と答え、自分がどう思うかよりも、地域社会やルールに従うという気持ちが強い。景観のルールは、行政が一度決定すれば地域の決まりとして守りやすいと言える。
実行可能	様々な理由で活動への参加や貢献ができなくなる人は4割を超えており、活動の効果や意義について疑問が生じないように情報提供する必要がある。
結果予期	6割の人がささやかな緑化でも景観は良くなると感じることができ、実際に行動をすれば達成感を感じる人が多い。地道な景観づくりの有効性は高いと期待できる。
有効感	市役所が景観のルールを定めることの効果を疑う人は極めて少なく、ルールの効果を信じる人が多い。
配慮的意識	行動に移る前の意識・気持ちとして、景観づくりについて学んだり、協力したいという人が65%程度。そうした人々を、実際の参加や貢献活動に駆り立てるような支援が効果的と思われる。（啓発活動や補助金など）
地区への愛着	7割以上の人々がまちへの愛着を感じており、「とてもそう思う」の回答も43%と最も多く、地域への愛着は強い。

●飯能市の景観に関する自由意見

【自然景観資源の整備に関する意見】

- ・「今ある公園の整備」「川周辺の美化、流木・雑草の撤去、護岸工事をしてきれいで安心な川遊び」
- ・「駐車場の整備」「森林の整備」「ハイキングロードの整備（うっそうとして暗い）」
- ・「山歩き、ウォーキングに来飯される方々を増やすには山道コースに面した道を優先的に手入れ（間伐、ヤブ刈）をし、気持ちいいコースにすべきである。また、現有コース以外にも手入れをすれば新しいコースが開かれ都会の人のよい憩いの場となる。」
- ・「飯能河原でBBQをする人に対してルールを決めたほうが良いと思う。有料のゴミ捨て場を設置するか、代表者の名前で登録制にしたほうがいい。ポイ捨てしてる人がいる。」
- ・「あけぼの子ども森公園をもっと充実させるべきです。里山をフルに活用したハイキングコースの整備、アップダウンを利用したマラソン練習コースの設置等々も考えてはどうか？」
- ・「水と緑がたくさんと四季の季節感が一番だと他市に自慢できます。」
- ・「天覧山を降りたところに谷津田の湿地があり、稲を植えているようですが、そこに菖蒲・水芭蕉などを植え、周りは咲いている期間の長い河津桜の木などを植えてほしい。」
- ・「下畑地区→クリーンセンター→飯能西中方面、この道路については、歩道に雑草が多くまたガードレールも古いものが多い。ハイキング客が気持ちよく歩けるようにメンテナンスをしっかりと行ってほしい。」
- ・「景観緑地の標柱が立っていますが、整備状況は最悪です。休日には家族連れから高齢者まで多くの方が楽しんでいますが、山頂付近の階段は整備状況が悪く危険です。早急に整備すべきかと思えます。」
- ・「自然がたくさんあることが一番の財産のまちだと思います。高麗や秩父のように、人が来てゆっくり楽しめる環境づくりを考えることが必要だと感じます。」
- ・「阿須山中等に自然を残してほしい。一度破壊したら自然は戻りません。大事にしましょう、大事に！」

【まちの回遊・拠点としての駅に関する意見】

- ・「飯能の山や自然を楽しみ、駅に戻ってきたときに立ち寄れる場（食事提供の場など）が、飯能の西川材で作られた空間であること。駅から徒歩10分圏内は生活の経済圏として土地の利用・再開発を図り、10分以上歩くと自然豊かな山なみが目に入ってくるようなまちづくり。そしてムーミンバレーパークと別々の空間、昔からあるもの等、いろいろ観光して楽しめること。」
- ・「飯能駅、立体駐車場についてみるたびにがっかりします。（提案）→地下駐車場にし、空地にハイキングの人やテーマパークに訪れた方々や地元の人たちがくつろげる西川材でできた建物。内部はカフェ（西川材の椅子・テーブル）と西川材の展示販売。飯能市の景観をビデオで流す（無音）。名所の紹介や特産品の販売。」
- ・「マイクロバス（市内循環バスの設立）の導入」
- ・「飯能駅から東飯能駅までの歩き動線のまちづくりのコンセプトを考えて整備すべき。」
- ・「夜間、駅北口に客引きが道の両側で立ち寄り恐怖を感じます。（エイブル飯能店・コーヒー苑前）」
- ・「里山の美しさは多くの人を感じていることだと思います。このところメツァから市街地、特に商業地域（銀座商店街）に人が流れてこない、といわれている件について思う事があります。メツァには何度か行きましたが、とてもよく作りこまれたと思います。非現実的な夢の世界を楽しむことができます。その人たちが、駅に戻って見るのはさびれつつある現実の商店です。メツァで楽しんできて、現実にも早くも引き戻されてしまいます。足が向かないのは当然だと思います。かといってまちなかをメツァ風に、というのは違うのではないかと思います。飯能らしさをアピールする、観光客が自然と足を向けたくなるセンスの良い場所をつくる必要があると思います。色、室内、お店、いろいろな要素が上手くアレンジされてまちができれば、メツァやこれからできる天覧山下の複合施設で楽しんできた後でも足を向けたくなるような場所になるのではないかと思います。ただ、商店街はなかなかできる条件が揃っていないことはネックである事もわかっております。」

【観光・商業・まちの賑わいに関する意見】

- ・「商店が閉じると駐車場と住宅になる。全国的にシャッター通りがそのままになっているが、商店から住宅になる場合は、商店街通りとしてマッチングされたものとなるようにすべき。」
- ・「飯能⇄メツァの往復のみの客がほとんどで、市街地に観光や買い物で立ち寄る人はほとんどゼロに等しいと聞いている。何のための誘致であったのか？市や市民にとって全く効果的なものは感じられない。会社に強く交渉して「ムーミンの街 飯能」を堂々と使い、内外にアピールする必要が急務である。中心市街地の商店等に、ムーミンに関係する等身大パネル等々を配置し、それを見物するために旅行客等が市街地に立ち寄るようなことを考える必要がある。市街地に人が集まればやる気のある個人商店が出店を希望して、まちなかにもぎわうのではないか。」

- ・「ムーミンバレーパークなど市が関わる以外の施設、例えばカールヴァーン（関わっている？）のような素敵な施設と市の景観の一体化は素晴らしいと思う。各機関の連携でできるところがたくさんある。また伸びていく可能性を秘めている自治体だと思う。」
- ・「例えるなら瑞穂町のエコパークや航空公園のようなドッグラン。宮沢湖に来る観光客も犬連れが多いので合わせて誘致でき、日高や入間等の近隣からも呼べるでしょう。北欧の雰囲気を感じるドッグランは大人気になると思う。」
- ・「ムーミンバレーパークについては、市民割引を設定する。駐車場代を無料にする。」
- ・「トーベヤンソンあけぼの子ども森公園は、市外在住者の利用も多いため、市民は無料とし、市外在住者は少額を設定して集金する。駐車場代も。」
- ・「ムーミンバレーパークに来た人が、さらに商店街でスイーツを買う等、宣伝する。ツーデーマーチに参加した帰りに宿泊→観光する場合の割引。」
- ・「観光という点から考えると、景観づくりだけでなく体験型イベント（エコツアー、祭り参加、ウォーキング大会、農業林業体験等）との組合せを充実させることにより、リピーターの増加を図る。」
- ・「飯能は「日帰りできる近場の行楽地」という地位を確立することが必要ではないかと思います。飯能駅南口のパチンコ店跡地の利用について、サイクリングやハイキングで来飯される方に、一時荷物預かり、シャワールーム設備を用意し、帰りに街に出て飲食店等を利用しやすい環境をつくる。まちに人が出ている風景は、活気のあるまちであることを印象付けると思います。」

【情報発信・イベント・啓発活動に関する意見】

- ・「個人としては、SNSで飯能のまちなみの美しさ、素晴らしさを発信する等出来ますが、他の市民の方々とつながり、皆でできるイベント活動にも参加してみたい。」
- ・「写真展と写真集と景観MAP：いま飯能で「飯能らしい景観」「誇れる景観」「後世に残したい景観」「飯能市にしかない景観」「新しい景観」などが分かる「飯能景観写真展」を開催し、掲載作品を写真集として販売してほしい。もちろん写真集には市内全域マップは不可欠。有料で2,000~3,000円、掲載写真はプロアマ問わず市民から公募してほしい。「分類名」「ジャンル名」「説明キャプション」も重要。
景観の動画記録：上記「写真展」の静止画では伝わらない「動画ならではの映像」を制作し、テレビ飯能で定期的に放送し、DVDも販売する。その際「飯能百景」というように数を限定せず、「飯能〇〇景観」として数を増やしていく。
- ・「飯能景観保全カレンダー：1年365日なので、市内365か所の「景観」を指定。365日にそれぞれ『〇〇景観保全デー』を割り当てたカレンダーを製造販売する。価格は大判1枚2,000円、中盤12枚1,200円、小型日めくり1,000円。広告付きにして広告収入も確保する。」
- ・「市の景観化向上を推進していくためには、市民一人ひとりが環境意識を高めていくことが不可欠。そのための施策として「eco検定」の保有者を増やすことを目標に「eco検定」奨励都市としてはいかがでしょうか。内面から環境を重視する「スマートシティ飯能」を目指したい。」

【景観の規制・ルールに関する意見】

- ・「マンション等の高い建物の高さ制限をしたほうがいい。」
- ・「助成金を設けて、希望する人のみ景観づくりにあったものを市から提案してあげればいいと思う。無理にルールをつくって市民を縛ってもまちはつくれない。よいものが提案でき実行できれば続く人が必ずいる。北欧の町にしてほしい。」
- ・「景観の感じ方には個人差があり、主観的な要素も含まれるため、一律に行政が規制を考えることには、違和感を感じる。」
- ・「ゼロ金利やローン減税の影響で新築住宅が乱立しています。近年は異常な勢いでの乱立ぶりです。建蔽率の規制が緩いために狭小住宅の乱立となっています。近未来時での景観の悪化のみならずスラム化や居住環境の悪化が心配です。」
- ・「私有地ならどんなことでもできてしまう。それは規模が大きい、小さいで変わるときもある。要は内容が重要だと思う。環境負荷をかけるかどうか？ということも、時間が経過してから分かることもある。民間の動きに行政は後れを取っている。社会全体を見渡し、すでに事例がある場合に限っては、状況に対し敏感であってほしい。民間の勢いが弱くなった時、自治体が最後責任を取るようになることも視野に入れ、自然を守り活かして行くことで自治体の財産でもある豊かな景観も守っていける。みんなで学びを深め、心も風景もきれいな地域で暮らしていきたいと願います。」
- ・「建物等の害に対しては行政の強い措置が大切だと思う。自然環境保全はボランティア活動に期待したい。行政並びにボランティア、いずれも強いリーダーシップが必要だと思う。」
- ・「景観条例を制定する際には色彩や形態についての制限をするのが普通だが、それだけでは十分でない。規制

すべきは表面に偽物がプリントされたような素材（〇〇風サイディング等）ではないだろうか。それらは経年変化もせず、ただ表面のプリントが汚れていくだけの偽物で、また飯能固有のものでもない（全国どこでも流通している。）

・宮沢湖周辺で守るべきは緑の多い里山の風景であって、規制すべきは乱立する恐れのあるチープな北欧風の建物群である。市の製作としても、例えば飯能駅南口にできたトイレなどの偽物の北欧デザインを持ち込むべきではない。飯能を日本の北欧に、などという人もいるが全く見当はずれで、廃墟と化している清里の二の舞である。目指すべきはきちんと文化の延長線上にまちをブランド化している軽井沢。市長、市議にはこの2つのまちを視察してほしい。」

【まちの基盤整備・安全性に関する意見】

・「歩道が狭いので広くしてほしい、駅周りの道が狭いので広くしてほしい（特に北口）、道路が凸凹しているのを直してほしい、インフラをちゃんと整備してほしい、などの公共インフラ整備の声」
・「景観化を考えた上で、最優先事項として「電線電柱の地中化」を提案する。公的な人工物で景観に悪影響を及ぼす大きな要因。また、最近の災害でも塩害や暴風による電柱の倒壊等による復旧への遅延リスクが大きい。」
・「ブロック塀の高さや古さがとても気になる。道が細く、両側から倒れてくると逃げ場がないと感じる場所も多い。木製の塀になれば安全性も向上し、安心して暮らせると思います。特に寺の万年塀は見直してほしい。」
・「公園の雑草や木などの手入れが行き届いていなく、住民に迷惑が掛かっている。」
・「自然災害には勝てませんが、強い災害を最小限に止めるまちづくり、景観づくりに努めてください。」
・「建築物だけにこだわらず多角的に景観を大切にすることがある。人の行動にも注目してほしい。例えば足が不自由な人が快適に利用できますか？エレベーターはあっても目的の場所から遠すぎませんか？駅の周辺の路上駐車は問題ありませんか？古い建物を大切に木材を有効活用するという方向であれば、路上での火気（タバコ含む）の規制は？多岐にわたるため着実に一歩ずつ進めてもらえればよいと思います。」

【西川材と住宅に関する意見】

・「住宅を建てる際、市で設計事業者を紹介したり、西川材を使用する住宅に補助金を支給するのはいかがでしょうか？このような制度が実際あるかわかりませんが、現状は建売業者の建てた住宅を購入するだけで、飯能の自然とマッチする住宅という観点で住宅を購入する人はかなり少数であると思います。」
・「西川材の普及状況や制度利用状況などを公開（PR）するとういと思う。」
・「市街地に西川材を使用したもの「ベンチ、街路灯、商店など」が増えれば、木のぬくもりを感じる市街地となり来飯者に力を感じてもらえると思います」

【その他の意見（市への要望等）】

・「飯能の最大の欠点はよそから移転してきた人たち（戦後）はよそ者であり、古くからの住民である自分たちは別格と考えている人種が多いことである。そのためにこのような人たちの意見や指示が尊重され、新しく移動してきた人は意見を出しても受け入れられない。景観は、日本の良さと西洋の合理性がマッチしたところにあり、よそから来た人達の中には土木・建築・美術・芸術・学術・研究等、優れた人が多い。こうした人々を活用し指導を積極的に受けるべき。」
・「パチンコ店が本当に必要か。市の公共施設（子育て支援センター、行政センター、児童館、福祉施設）がある場所があると住民はとても助かり、暮らしやすくなると思う。」
・「以前テレビで、湯布院での看板撤去やまちなかの植樹を放送していたが、まち全体の協力でやらないとできない。市長がその気になってリーダーシップを持ってやらないと景観計画はできない。以前川越へ見学に行ったとき、大通りに大正時代の建物を現代で建てているのに感動した。飯能唯一の県指定名勝「天覧山の勝」は大正11年3月埼玉県指定名勝第1号となっている。また大正時代には明治神宮誘致もあり、水道は埼玉県3番目である。先人について学ぶべきである。」
・「このような調査に参加させていただき大変うれしいです。以前より思っておりましたが、行動に移すことはできませんでした。近くにあるホテルの上の階よりまちを見渡してみますと、いろいろな色でくすんでとても汚く感じます。古い建物も以前より減ってしまい、あと10数年前だったらと思います。でも「緑と清流」のうたい文句を感じられるようなまちなかになれば素晴らしいと思います。」
・電柱を地中化したり緑を増やしたり、まだできることはあると思います。この周辺は昔からの住人が多く、隣組もまだ生きていて穏やかな人心です。みんなで協力して温かいまちづくりができたならなあと思います。啓発活動も必要だと思います。近くの桜の木も葉っぱが駐車場の車に落ちるといって切られてしまいました。
・「こんなまちにしよう！」という目標をつくり、市民がみんな思いを一つにできたら素晴らしいですね。山に緑があるだけでなく、まちなかが緑あふれるまちになったらいいな～と思っています。年寄りのたわごとと思

ってください」

・「飯能の魅力は、都心に近く自然が豊か。まちが一つのもの一色になっていない良さがある。例えば蔵の川越や横浜のように完全に観光地化されていなく、住む人の生活が感じられる温かさがある。

・自然栽培の農家、モノづくりの人たち、昔からの商店、穏やかなまちなみ。気持ちよく生活できると移り住んできた若い人たちがいます。古いものも新しいものも、人を大切にできる生活を大事にすることが、飯能を豊かにしてくれると思います。」